

ハート・バリアフリー

倉吉市人権文化センター

☎ 22-4768/ ☎ 22-4901

No. 18

在住外国人の人権保障

倉吉市では、現在「第2次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」の見直しを行い、人権8分野の課題の一つとして「在住外国人の人権保障の実現」の克服に向けて取り組みを進めています。

学校教育の場では

市内のある小学校では、来年度に入学する児童に対し、より日本の教育制度や実態を外国人保護者に理解してもらおう取り組みを進めています。



研修を実施しています。

また、外国人保護者だけでなくその多くを占める日本人配偶者に対しても、具体的な聞き取り調査を行い不安解消に努めています。

直接話し合う中で、外国人保護者自身が日本語の読み書きに自信がなく、家族に育児がまかせきりになっている実情が浮かび上がってきました。そこで校内の表示をローマ字併記にし、学校からの連絡文書に読み仮名をつけるなどの準備もしています。また母語※1による日本の教育制度の解説書を渡し、理解を深めていこうとしています。どの学校にも外国にルーツを持つ子どもが在籍しつつある現在、このような取り組みがどの学校でも実施される日も近いはず

外国人の受け入れと支援

さらに、外国人を支援する市民団体では、県が策定した「人権教育基本方針」の中の「外国人の人権

に関する教育」の内容を多言語で翻訳し、冊子にしています。これは、外国人の人権保障を進める内容にもかかわらず、日本語で書かれているために、外国人にとって理解しにくいという声があつて作られました。その結果、「学校教育や生涯教育でどのような取り組みがなされようとしているのかかわかった」、「自分たちのことをどう考え、思っているのかがよく分かった」という声が聞かれました。



外国語母子手帳、父子手帳は福祉事務所健康相談コーナーで

また、市の健康支援課の仕事に妊産婦への支援がありますが、これも外国人との接点が多いところ

です。ここ数年、外国人の妊産婦の増加が見られますが、以前は日本語の母子手帳だけが渡されていました。異国での出産や医療制度の違いから、不安を感じる人も多かつたようですが、現在では四カ国語

(英語、中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語)の母子手帳があり、妊産婦の申請手続き時に聞き取りや母語の手帳の紹介をして、安心して出産と育児ができるように進められています。しかし、出産準備の冊子が日本語のみであり、妊産婦の不安を解消するには言葉の問題など、まだまだ多くの課題があります。

自分のできる範囲で

幼、保育園や小中学校の保護者の中には、外国人保護者と積極的にかかわりを持つ人たちが増えています。部落解放女性集会の分科会では、ここ数年外国人保護者に対して自分ができること、してきたことについての話が、学校や地域の行事に誘ったり、日本語を教えたりしているお母さんもいて、自分のできる範囲の貴重な国際交流を進められています。

現在、来年度からの実施に向けて「第3次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」の策定が進められています。より具体的で課題解消ができる総合計画のもと、在住外国人を地域とともに暮らす住民として、文化や宗教、価値観などを認め合い、安心、快適に暮らせる環境づくりの取り組みが求められています。

(※1) 母語：幼児が最初に覚える言語、自分の話す言葉

鳥取中部ふるさと広域連合 消防出初式

1月6日(金)午前10時から天神川河川敷の巖城市民スポーツ広場(中部総合事務所隣)で、平成18年鳥取中部ふるさと広域連合消防出初式が行われました。

この日は、前日からの雪で、寒風で身の引き締まる中、消防職員百五人や関係者総勢約百三十人が参加しての式となりました。始めに、高田博正消防局長より「今年は、消防法の改正で、住宅への火災警報器の取付が義務づけられるなど住宅防火対策促進に取り組む。近年の事例からも救急救命にかかわる出動が増えており、その整備を重視したい」とあいさつがあり、表彰や祝辞のあと、消防防災ヘリコプターを使つての救助・救急搬送訓練、分列行進と続き、はしご車、防災ヘリなどが集結しての一斉放水は実践さながらの迫力の訓練となりました。



韓日記

姉妹都市 羅州・華川便り

国際交流員 韓召眞

2006氷の国 華川、溪流魚祭り

寒い日が続ぎ、身が縮む季節を迎えています。ですが、むしろ、このような寒い冬の方が楽しいという人もいらつしやるでしょうね。その中には、スキーヤーやボウダーだけではなく、氷と雪の上で開かれる冬の祭りを楽しみにしている人々もいらつしやるのではないのでしょうか。そこで、今回は、現在、華川郡で開かれている「氷の国 華川、溪流魚祭り」を紹介いたします。

今年で第4回目を迎えたこの祭りは、1月7日から30日まで開催され、今や韓国でも、冬祭りの代表として定着しつつあります。第1回目の2003年に訪れた観光客は22万人、2004年は58万人、去年は延べ87万人が訪れ、毎年観光客が増えつつあります。そして、今年なんと100万人を超えることが目標だそうです。人口約2万5千人の自治体で、100万人以上が参加する祭りを開催するなんて、すごいとしか言いようがないですね。

華川郡の1月の平均気温はマイナス5℃で、最低気温はマイナス10℃を軽く下回るので、創作ソリコンテスト、氷

上サッカー、溪流魚のつかみ取りなど、約40種のイベントは、全てカチンコチンに凍った川の上で行われます。特に、創作ソリコンテストで優勝すると賞金100万ウォン(約12万円)がもらえるため、郡内外の一般人はもちろん、軍人の参加も多いそうです(参考までに、華川郡は北朝鮮と国境を接しているため、軍人の数が郡民より多いです)。また、真冬に、大人のひざぐらい深い氷水に駆け込み、素手で溪流魚をつかみ取る姿は、全国でもこの祭りしか観られない風景です。見ている人は寒く感じても、実際参加している人は寒さを乗り越えるエネルギーが湧くと大喜びです。

いかがですか。華川郡の祭りに参加することは難しくても、寒いからこそできるオリジナルイベントを考えてみるのも面白いかも知れませんね。何か楽しい事をしながら、この冬を元気に過ごしましょう。

◀イワナをモチーフにした創作ソリ



▶氷水の中で魚のつかみ取りに興じる参加者